

# 着実に進んでいる災害復旧事業！

吉田進一郎 委員長

平成25年度は、まず昨年7月12日に開催し、五十嵐川をはじめとする改修事業の進捗状況と今後の予定について説明を受け、災害復旧現場等の現地視察を行った。

**五十嵐川災害復旧助成事業**の信濃川合流点から渡瀬橋付近までの下流部は、26年3月末に完了予定。また、渡瀬橋付近から上流の中・上流部は、改修計画および具体的な工事内容、用地補償などについて説明会を開催し、破壊等で被害が大きかった箇所を先行施工区間として優先的に工事を行い、今年度中には工事を全て発注したい。

**遊水地**は、地元に遊水地事業対策委員会を設置し、遊水地内の道路や用排水路などの具体的な内容を協議した。堤内では用地測量を行い、工作物の補償を行うための物件調査に着手した。今後は用地買収や補償契約を行い、今年度内に一部工事の契約および着工を目標としている。

**笠堀ダム**のかさ上げは地質調査が完了し、実施設計、環境基礎調査などが行われており、地権者との用地交渉も進められている。



月岡の遊水地建設予定地で説明を聞く

**鹿熊川改修事業**の五十嵐川合流点から上流の区間は、下飯田と曲谷地内で工事業者が決定し説明会を開催しており、残りの工事は年度内の発注予定である。なお、曲谷地内の新曲谷橋は、河道掘削や引堤の改修により安全に流下できるとの調査結果から、架け替えは行わないとして地元から理解をいただいた。

中浦川合流点から上流区間の発注済

みの工区は25年度中の完了を目指しており、単年度災害復旧事業は25年中の完了を予定している。

第2回目は、26年2月20日に開催し、五十嵐川等改修事業の審査を行い、中間報告について協議した。

**五十嵐川災害復旧助成事業**の下流部は、護岸工事の1工区の工期を延伸し、26年6月末ごろの完了見込みである。また、中・上流部の工事の発注は、一部26年度にずれ込む見込みである。

**遊水地**は、売買契約の集団調印を実施し、出席できなかった地権者は県と市で個別に対応している。

**笠堀ダム**のかさ上げは、26年4月から29年度末までの予定で、貯水容量は870万立方メートルから1050万立方メートルに増える。また、**鹿熊川改修事業**の未発注の工区は25年度中に1工区、26年度に2工区を発注する予定であり、工事中の一部は工期を延伸の予定である。

質疑では、遊水地に関して、県道から槻の森斎苑へ行く市道の付け替え進入口は今と同じような交差点になるのか、また周囲堤のり面は緑化するのには、進入口は今より若干鋭角になるため、多少曲がりづらくなると思うが、極力進入しやすい形にできないか県にお願いしたい。また、のり面は土のままの築堤となり、芝生の種をまくのかは聞いていない。また、この事



大名橋下流の工事現場

業の完了後は7・29豪雨災害クラスの雨が降った場合、出水をどの程度緩和できるのかには、五十嵐川は1800トンの流下能力を確保する形で整備したが、遊水地や笠堀ダムのかさ上げなどで対処しきれない部分はソフト対策でやらざるを得ない。

そのほか、現在信濃川水系の進捗状況は、国は下流域から流下能力をふやすための措置を行ってきており、中流域となる三条市までできればと希望している。

## 小中一貫教育等調査特別委員会

## 中間報告

# いよいよ開校です。小中一体校

西川重則 委員長

平成25年度は、まず8月5日に開催し、第一中学校区小中一体校等建設状況および開校準備状況について審査を行い、第一中学校区小中一体校の現地視察に合わせて、完成した裏館小学校体育館棟の現地視察を行った。

**建設状況**は、校舎棟の建築本体工事

は工事計画と比較すると遅れている。今後は、人員等を増やしながら対応する予定で、12月15日までは確実に完成できる見込みである。グラウンドと外構工事は26年3月までに完成する予定で、開校後既存の四日町小学校校舎の解体に着手し、間野川雨水貯留槽工事、サブグラウンドの整備を行い27年6月の完成を目指している。



正面玄関

質疑では、体育館の仕切りは厚さ30センチ、高さ3メートルくらいの箱型の物を連結し、倒れないよう体育館の中央で固定する設計で、プールの使用期間は屋外プールと比べて使用期間が長くなる。冬期間等は床を上げて運動場として活用していく。間野川があふれた場合の対応は、グラウンド内と四日町小学校跡地に調整池を造ることによって冠水が解消される。校舎は現在の地盤よりも80センチ高くなるため、間野川があふれても浸水するような心配はない。



可動床プール

また、間野川はふた掛けではなく、周りにフェンスを設置する。

**開校準備状況**は、嵐南小学校校名等制定委員会の進捗状況として、校歌はシンガーソングライター川嶋あいさんに委託することにした。校章は、公募で採用作品を教育委員会定例会に提案し、承認後発表する。

また、各部会の活動として学校運営部会では学年行事予定や生活のきまりなどについて、地域交流部会では施設開放や交流施設などについて、通学部会ではスクールバスの乗車試験や通学の安全見守り体制などについて、検討状況の報告があった。このほか試験登校結果の報告があり、今後は冬期に2回予定しており、今回の試験登校の反省を踏まえ、各学校個別の試験登校も予定している。

質疑では、校歌は三条市に来て子供たちと接し、風景なども見てほしいと

通学路の変更は試験登校結果を検証し、不具合があった場合は改善の方法等を探り、ハードの整備は今後関係等に働きかけて、開校後の冬場までに改善していく。

2回目は、25年12月19日に開催し、第一中学校区小中一体校建設状況について審査を行い、完成した第一中学校区小中一体校の現地視察を行った。

質疑では、特別支援教室のトイレサインは、特別支援教室部分は構造的に異なるため同じようにできないことから黒を使っているが、教育上問題があるようであれば今後検討する。また、今後行う試験登校は通常と同じ登校時間帯で行う。また、主要通学路は通学部会でほぼ決定したが、自宅から主要通学路へ出るまでの間も通学路となるため、詳細については今後詰めていく。